

つまり、私たちにとって税というものは日常生活をして行く上で必要なものであり知らず知らずのうちにわかり合っているものなのです。そうなってくると、関心をもたないわけにはいきません。

税に関する本を買って読み、あらゆることを知る。とまでいかなくても、せめて今までの考えを改めて、いずれ私も社会人になるのですから、これからは特に関心を持っていききたいと思います。

よく「税金の無駄使い」などと言われてはいますが、この言葉を聞くと、税について何の関心もなかったこの私でも、腹が立つてしまうことがあります。しかも、税金は増えるばかりで暮らしては楽になりません。これでは「損をする」という意識が強くな

納税の義務

日光高等学校一年野口尚子

「税」私たち高校生にとつて一口に言われても、直感的に感じとるのは容易なことではありません。

いつだったか、父の月給日にこんな言葉を耳にしました。

「今月も税だけで、ずいぶん差し引かれてるよ。まだまだ減税の見通しは先になりそうだ」と苦笑いの父。

そんな母との会話を聞きましたが、直接関係のない私は、あまり心にとまらせませんでした。しかし、私も二、三年すれば、社会人となり、日本の国民である以上、納税は義務。実際に税を納める身になると思うといつまでも知らずじまいではいられません。私がほんとうに税について学び知ったのは、中学の後半でした。それまでは、なぜ所得をはじめ、酒、たばこなどにまで税がかかるのか、また、国民によって納められ

るのは仕方がないと思います。だから、どうしても国民の負担を軽くすることができるとか、そして、それをどう実行していったらいいか、など考えていかなければならないと思います。そうすることによって、国民の負担は自然と楽になっていくと思います。

でもそうなるまでには、時間がかかるかも知れません。私たちが大人になった時、どう変わっているかとても興味のあることです。

私はこの作文を書いたことによって、税に対しての自分の考えがはっきりしました。これからは、より多くの人々に税について知ってもらい、もつともつと真剣に考えてほしいと思います。

る税は、どのように使われているのかほとんど知りませんでした。今現在でも税について知らない面はたくさんあります。そんな私ですから、国民にとつて税は重荷にすぎないのだから存在しない方が...。などという先入観が脳裏に焼きついていました。しかし、税を学ぶにつれ豆知識ながらも「税」に対する理解、そして使いみちを知りました。

私たちが日ごろなにげなく使っている教材や公共物、道路、橋などの建築工事費、その他各面で税が使われています。私たちの身の回りを見ても、納税によって造られたものや購入したもの、どれをとつても私たちに役立つものばかりです。納税は、国民一人ひとりにとつてみれば多少重荷でもあり容易なことではないと思えますが、汗を流し、力を消費して得たお

金の一部を税として納めることによって、その税が私たちにとつて、また、社会に付随した物として役立っています。私も将来社会人となり税を納める上で、

税金について

日光高等学校一年山川由利子

国全体の経済活動のなかで、国や地方公共団体の活動する範囲は、戦後社会保障や公共投資を中心に著しく拡大されています。私たちに身近な例をとつてみても、道路、住宅、上下水道、公園など、国民生活の充

実の基盤となる社会資本が年々整備され、学校などの教育施設も改善され、また、最近の厳しい国際石油情勢等にかんがみ、エネルギー対策についても積極的な措置が講じられています。

このためでしょうか、一般会計の歳出の推移を見てもわかるように、このような活動に要する費用も年々増加しています。

また、私たち家庭から支出された税金はどこへどのように使われているのでしょうか。一つは社会保障関係、また一つは公共事業関係、そして私たちが昨年で終えた義務教育など。いずれもどうやら私たち国民の生活に関係の深いものばかりです。

しかし、国民の負担する税金の額は、少なくなっています。

最初から「税」というものを非難するだけでなく、国民として、国、社会のためにも理解し、そして協力していききたいと思います。

この税金には、たとえば所得税や法人税のように、個人や法人の経済活動による所得の一部から納めるものや、酒税や物品税のように、消費者が物を買う際にその価格の一部として納めているものもあるようです。

いずれにしても、私たちは、常に税金とかわりあいをもっています。つまり、税制や負担の大小は消費や投資など国民経済の動きに影響を与えているのです。

税金は、国や地方公共団体の財政活動の財源となり、国民経済に強い影響を与えてしまうので、税金の動きについて考える場合、税制など、税金自体を見るだけでなく、広く税金の使われ方を通じて、税金の働きを考えてみる必要があると思います。

私たち高校生にとつて、まだ「税金」の問題は重すぎますが、これから成人に向って行くにつれ、税のことをあやふやにはできません。だから、一度真剣に考えてみる必要はおおいにあると思います。

納税組合に加入を!!

日光市では、現在千六百十一世帯、三千九百十六人が納税組合に加入しています。

納税を容易にするために、ぜひこの

機会に納税組合に加入しましょう。納税組合についてのお問い合わせは、地域の納税組合長、または、市役所税務課納税係(☎五四一―一一一内線二六七)へご連絡ください。

日光市納税貯蓄組合連絡協議会

日光